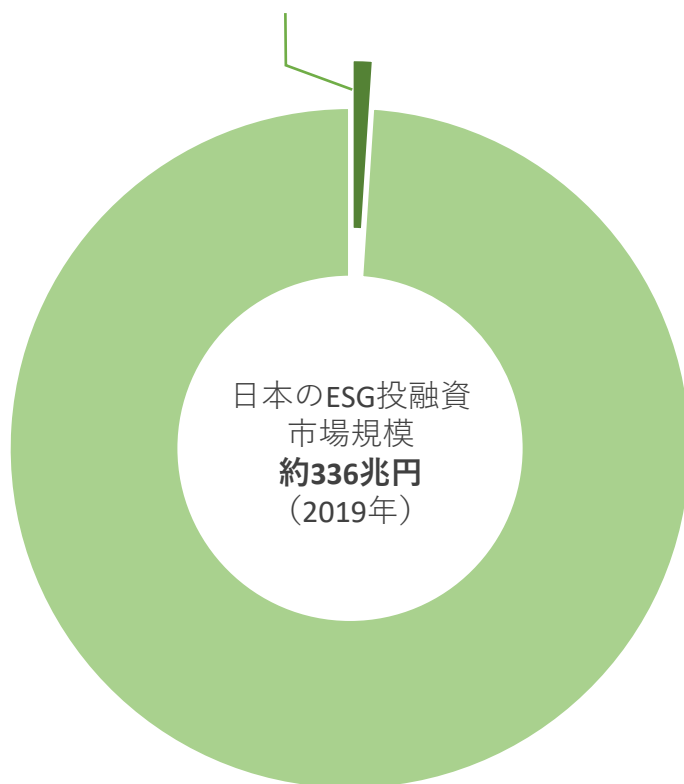


日本におけるインパクトファイナンスの市場規模

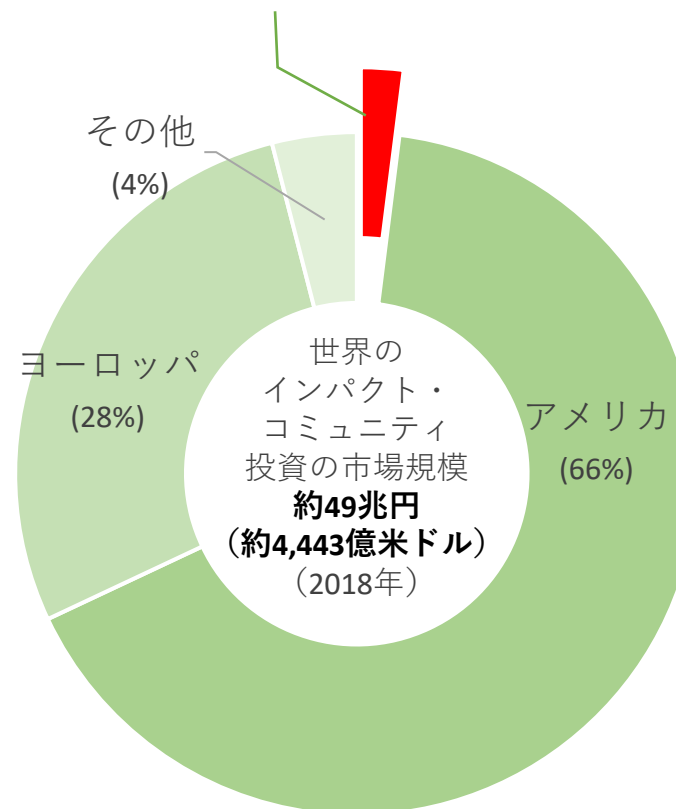
- 2019年時点での日本におけるESG投融資の市場規模は約336兆円に上るが、そのうちインパクト・コミュニティ投資の残高はテーマ型投資も含んだ約3.5兆円の内数にとどまる。
- また、世界のインパクト・コミュニティ投資のうち日本の割合は僅か2%程度と言われる。

インパクト・コミュニティ投資残高と
テーマ型投資残高の合計: **3.5兆円 (約1.0%)**



日本におけるESG投融資とインパクト・コミュニティ投資の市場規模※1

世界のインパクト・コミュニティ投資のうち、
日本の割合: **2%**



世界におけるインパクト・コミュニティ投資の市場規模と日本の割合※2

※1: 日本サステナブル投資フォーラム (JSIF) 「サステナブル投資残高調査2019」による。 ※2: Global Sustainable Investment Alliance 「2018 Global Sustainable investment Review」による

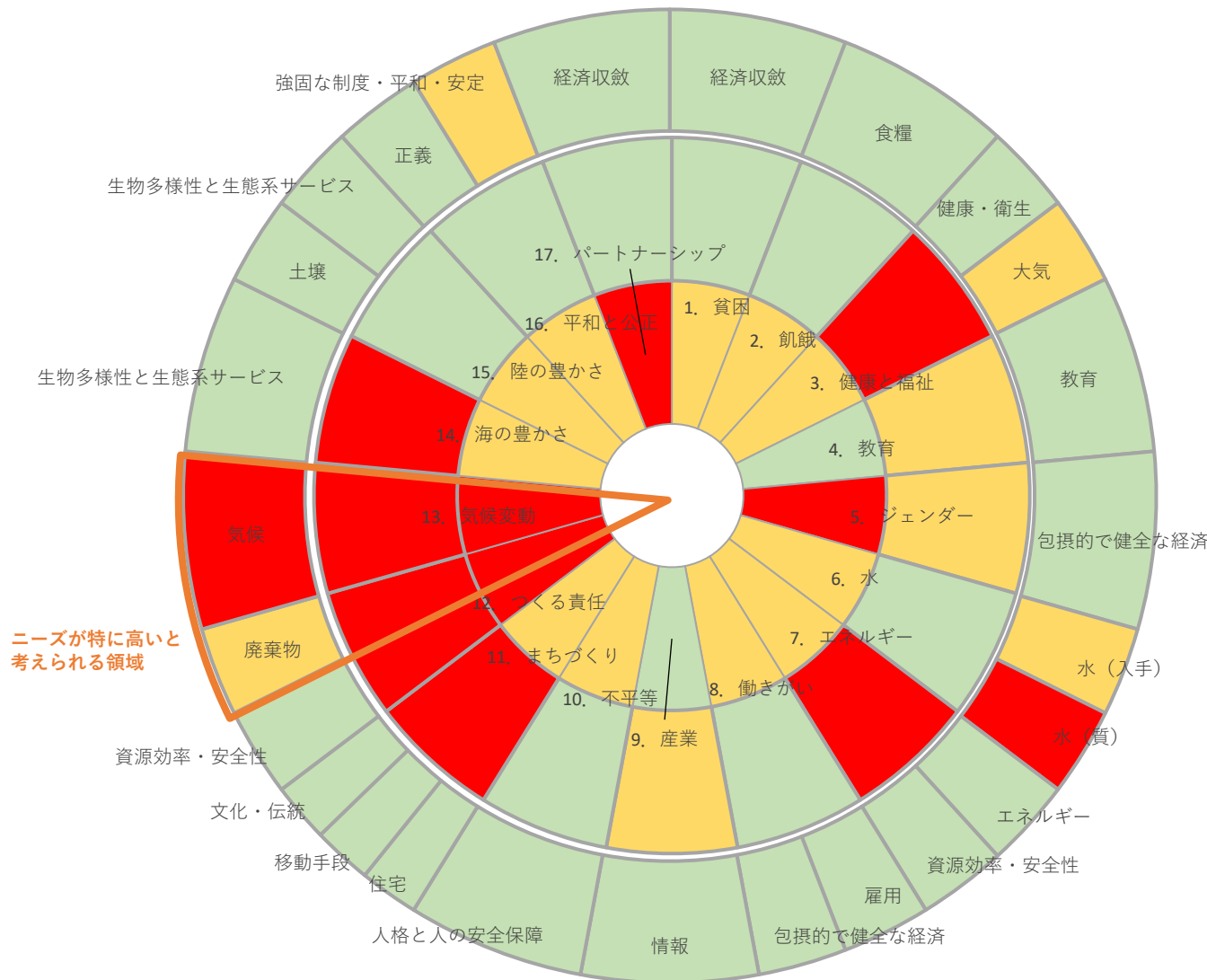
投融資種類ごとのインパクトファイナンスの流れ（イメージ図）



情報開示

日本におけるインパクトニーズの特定について（例）

・日本におけるインパクトニーズの検討・特定に際し、SDGsインデックス&ダッシュボード、日本政府による「SDGs実施指針」、UNEP FIのインパクト評価ツールによる日本のカントリーニーズの関係は以下のように整理できるのではないか。



凡例：

同心円の最内層：

・SDGs

「SDGsインデックス&ダッシュボード評価」によって我が国において最も対応が必要とされたSDGsを赤色、対応がなされていると評価されたものを緑色、それ以外を黄色とした。

同心円の中間層：

・対応する日本政府「SDGs実施指針」

日本政府「SDGsアクションプラン2020」に記載の「経済財政運営と改革の基本方針2019」において、日本が国際社会をリードするべき取組として示されたSDGsを赤色、その他進めるべき取組として示されたSDGsを黄色、その他を緑色とした。

同心円の最外層：

・対応する主要なUNEP FIインパクトカテゴリ

日本のカントリーニーズにおいて最もニーズが高い（スコア4）と評価されたものを赤色、最もニーズが低い（スコア1）とされたものを緑色とし、その他のものを黄色とした。

インパクトファイナンスの普及に向けたロードマップについて

最終目的

全ての機関投資家・金融機関等が全てのアセットクラスにおいて、インパクトファイナンスを实践

メインターゲット

第1段階
(~2021年3月) (2021年4月以降)

第2段階
(中長期)

大手金融機関・機関投資家

地域金融機関や中小・個人投資家への取組の波及

アウトプット

「インパクトファイナンスの基本的考え方」

- ✓ 投融資タイプ全般に共通する「基本的考え方」を整理

「グリーンインパクト評価ガイド」(仮称)

- ✓ 投融資タイプ全般に共通する「評価ガイド」を作成
- ✓ **環境面**のインパクト領域について、KPI等詳細の検討

- ✓ 投融資タイプ又は投資対象となる業種ごとの評価ガイド等の作成をニーズに応じ検討
- ✓ 普及に向けたインセンティブ等の促進策の検討

- ✓ 環境以外の側面のインパクト領域についての連携

対外発信

取りまとめの周知・普及

インパクトファイナンスの普及に向けたセミナー・シンポジウム等

タスクフォース外

- ✓ インパクトファイナンスの取組調査・支援の検討
 - ✓ 海外発信、関係者と連携
- ✓ 意欲のある地域金融機関・個人投資家への普及・連携